

教師になるという夢をかなえたい 感謝を胸に、これからも歩いていく



石原佑美さん(崎平)

私は今、静岡の大学で教師になるという夢に向けて勉強に励んでいます。「教師」という夢。そのきっかけは、小中高と、私に影響を与えてくれた先生たちとの出会いによるものでした。

私が出会ったどの先生も、いつも真剣に向き合ってくれ、心から尊敬できる人たちがばかりでした。そんな先生たちの姿を見て、私も子どもたちと関わり、その思いを分かちあいたいと思っただけでなく、自分も教師として活躍したいという思いが湧いてきました。

しかし大学に入り、その夢がぐっと近づいてくると、正直、戸惑いも感じ始めました。今まで遠くでキラキラと輝いていた教師という職業が、いきなりリアルなものとして自分に迫ってきたのです。

「なりたい」という思いより、「うまくやっていけるのか」という不安が、夢と向き合うことが大きくなり、夢と向き合うことが苦しいものになりました。

そんな中、静岡市の小学校に教育実習に出向き、4年生のクラスを受け持つことになりました。実習初日、焦りと不安につぶされそうになりましたが、担任の授業の進め方や指示の出し方などを必死で観察しました。それだけで精いっぱいでした。

しかし放課後、担任の先生に「今日は子どもたちを見るのができましたか」と言われ、そこではと気が付いたんです。「子どもと向き合う」という、教師の原点を忘れていたことを。

次の日からは、子どもたちに向けて、接することを意識して授業に臨みました。すると、自分のことを積極的に話してくる子が増え、子どもとの成長を実感するようになりました。立派にやり遂げたとは言えませんが、この教育実習を経験することで、もう一度夢と向き合うきっかけをもらったような気がします。

今、夢に向かって歩んできた自分を振り返ると、「人との出会い」に恵まれたことに感謝せずにいられません。この町を離れたことで、改めてたくさんの人に支えられ、大切にされてきたんだと実感しています。皆さんに「ありがとう」の気持ちを伝えたいと思います。

私が本当に自立するのは2年後の大学卒業の時です。その時胸を張って自分の選んだ道を歩めるよう、あと2年間精いっぱい悩みながら進んでいきたいと思っています。

話してくる子が増え、子どもとの成長を実感するようになりました。立派にやり遂げたとは言えませんが、この教育実習を経験することで、もう一度夢と向き合うきっかけをもらったような気がします。

信頼という言葉の大切さを知った 「笑顔」を心がけ、成長していきたい

前田美咲紀さん(上長尾)



名古屋にある鍼灸の専門学校に通い始めて2年がたち、古くからある鍼灸の専門学科に通っています。

私は何か資格を持ちたいと考え、鍼灸の道に進みました。鍼灸は、一般的には針治療のことを指しますが、その中でも私が興味を抱いたのは「美容に効く鍼灸」でした。

美容そのものに興味があり、その関係に進みたいと思っていました。インターネットで鍼灸について調べたとき、「やってみよう」という軽い気持ちで入学しました。

しかし「鍼灸」は、医療系の専門技術。実際に勉強し始めると、思っていた以上に難しく、専門的な知識も数多くありました。中でも実技は思うようにいかないことが多く、みんなに迷惑をかけてしまうこともありました。

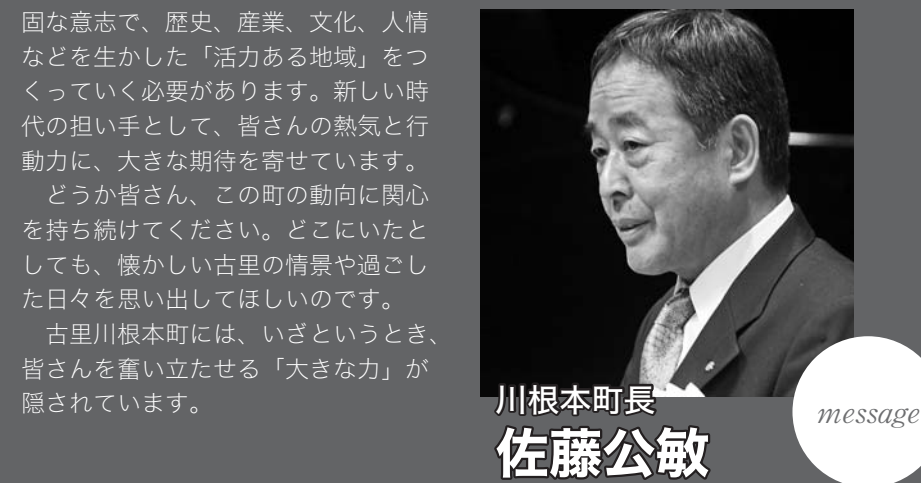
2年生になってからは「臨床」という生徒同士が「患者役」と「治療をする役」に分かれて実技をする授業が多くなり、この授業で改めてコミュニケーションすることの難しさを実感したのです。

もともと人見知りな私に、患者さん役の人から話をしたらいいのかわからない、何をしたらいいのかわからない、聞き返すことが多々あります。しかし鍼灸師にとって対話する

これは1年間、人との信頼関係を大事にし、患者さんと上手に向き合っていくように努力を続けていきたいと思います。

これまで大切にしてきた友達や家族と同様、患者さんやこれから出会う人たちと笑顔で接し、信頼される人間に成長していきたいと思っています。

これは1年間、人との信頼関係を大事にし、患者さんと上手に向き合っていくように努力を続けていきたいと思います。



川根本町長 佐藤公敏

この町の動向に関心を持ち続けて

成人の日を迎えた皆さんは、晴れて大人の仲間入りし、法律的に権利が与えられると同時に、自らの行動と判断に社会人としての責任と義務を求められるようにもなりました。家族や隣人、地域社会などに対して、どんな役割を果たせるのか、何をしたいかということをしっかり考えてほしいと思います。

厳しい社会情勢の中、地域の課題は地域自らの力で解決していくという強

固な意志で、歴史、産業、文化、人情などを生かした「活力ある地域」をつくっていく必要があります。新しい時代の担い手として、皆さんの熱気と行動力に、大きな期待を寄せています。

どうか皆さん、この町の動向に関心を持ち続けてください。どこにいたとしても、懐かしい古里の情景や過ごした日々を思い出してほしいのです。

古里川根本町には、いざというとき、皆さんを奮い立たせる「大きな力」が隠されています。

私たちに憧れの存在でした

成人の日を迎えられた皆さんおめでとうございます。社会に出て活躍していたり、勉強に励んでいたりと、自信と希望に満ちた毎日を歩んでいる様子が、皆さんの表情から伝わってきます。

私たちが小学校に入学したとき、最上級生として温かく迎えてくれたのがここにいる皆さんでした。入学したばかりで何も分からなかった私たちに、優しく声をかけてくれた皆さんは、さ

まさな場面、私たちに憧れの存在でした。

中学3年になった今、私はまだ将来進むべき道がはっきりとせず、将来のことを考えると不安に思うこともあります。でも今日、新成人の皆さんの自信に満ちた表情を見て、私たちも自分の夢を追いかけ、しっかりと自分を持って歩いていかなければならないと、大きな勇気をもらいました。

大人として第一歩を踏み出した皆さんの、これからの活躍を願っています。



本川根中3年 石川愛理さん

message

message